麦わら細工

城崎温泉には、麦わら細工製造と創作の長い歴史があります。約300年前、湯治のために1人の旅行者が城崎を訪れました。彼は独特の麦わら工芸を使って品を作り、宿主への支払いに充てました。長い年月をかけ、色付きの麦笛やコマといった小物からこの麦わら工芸は進歩し、複雑な箱や装飾品のような大きな物が作られるようになりました。この手工芸の技術では、特殊な模様のひとつに織るか、切って並べるかした様々な帯状の色付き麦わらを使用します。これらの麦わら作品は、その後に箱、うちわ、さらにはハガキまで、多数の異なる品を装飾したり覆ったりするのに使われます。

麦わら細工は、ドイツ人医師のフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトのおかげで国際的評価さえ受けています。彼は1830年の帰国時、旅の途中で収集した様々な日本の芸術品を持ち帰りました。その中には、この麦わら工芸を使って城崎で作られた品も含まれていたのです。それらは現在、オランダの国立民族学博物館、ドイツの5大陸博物館などヨーロッパ内のいくつかの博物館で観覧することができます。

この地域への旅行客は、城崎麦わら細工伝承館が定期開催しているワークショップで麦わら細工に挑戦することができます。地域内の数多くの店舗にこれらの美しい麦わら細工品が置かれており、お土産に最適であると同時にそれらは城崎温泉を思い出すための品としてもぴったりです。